

年間第十五主日

2017.7.16

マタイ 13・1-23

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高神父

「耳のある者は聞きなさい」。種蒔く人のたとえを語られてからイエスはこのように呼びかけておられます。耳ある者となって、イエスの語られるみことばを聴くために、あらためて、種まく人のたとえ話に耳を傾けましょう。イエスが求めておられる耳ある者となるためには、わたしたちの心が道端のようであってはなりません。次から次へと押し寄せてくる情報に、わたしたちの心を踏み荒らされるままにしているではありません。祈りのうちに心を静めてみことばを味わうことが必要です。せっかく蒔かれたみことばの種が空の鳥についばまれてしまうことのないように、心を静めてみことばを味わう習慣を身につけましょう。みことばを味わう祈りの中で、わたしたちの心の状態が明らかになってきます。わたしたちの心が水気のない石地のようにになってしまうのは、わたしたちの心がまだ祈りを知らないからです。祈りと日常の生活がわたしたちの中で遊離しているからです。祈ることを本当に会得したら、わたしたちの心は石地のようにになってしまうことはないでしょう。忙しい日々の中で、祈りの大切さがわかってくることでしょう。その祈りの中で、わたしたちが何を求めてあくせくしているかが見えてくることでしょう。せっかく蒔かれた種が藪に覆われてしまうことを惜しむ悲しみを知ることができることでしょう。そのような悲しみを通して、わたしたちはこの種まく人のお話をしてくださったイエスの御心に近づくことができるのです。イエスが蒔いてくださっている種に宿る貴重ないのちの力を知ることができるのです。

「耳ある者は聞きなさい」と呼びかけておられるイエスは、蒔かれた種の行方を知っておられるのです。たとえその種が空の鳥についばまれてしまうことになっても、芽を出した種が強い日差しに焼かれて枯れてしまうことを知っておられても、藪に覆われて窒息してしまうことを知っておられても、イエスは今日もこのミサに集うわたしたちに種まく人のたとえを語ってくださいます。あらゆる無駄と挫折を越えてみことばの種に宿るいのちは、やがて豊かな実を結ぶことを知っていてくださるからです。

耳ある者となるためには、自分たちに語りかけておられる方がどのようなお方であるかを知っていることが条件となります。「あなたがたには天の国の秘密

を悟ることが許されている」とイエスは言われます。今日の種まく人のたとえ話によって、天の国の秘密を語り聞かせてくださるイエスを信じ、その御後に従う者となることによって、イエスが望んでおられる豊かな実を結ぶことができる恵みを願いましょう。そのために、聖母の取り次ぎを願いましょう。

聖母は天使ガブリエルを通して、神のお告げを受けた時、「おことばの通りになりますように」と、ご自分をよい畑としておささげになりました。聖母のこの奉献によって、聖母は神の母となられ、神のみことばである御子イエスは、わたしたちの中にお生まれになられたのです。アベ・マリアの祈りを唱えるたびに、みことばを心に納め、思いめぐらしておられる聖母に、わたしたちの内にもみことばが受肉してゆくことを祈ってくださるよう願いましょう。